

まとめにかえて－「学力向上のための提言 10 か条」

大阪教育大学助教授 田中 博之

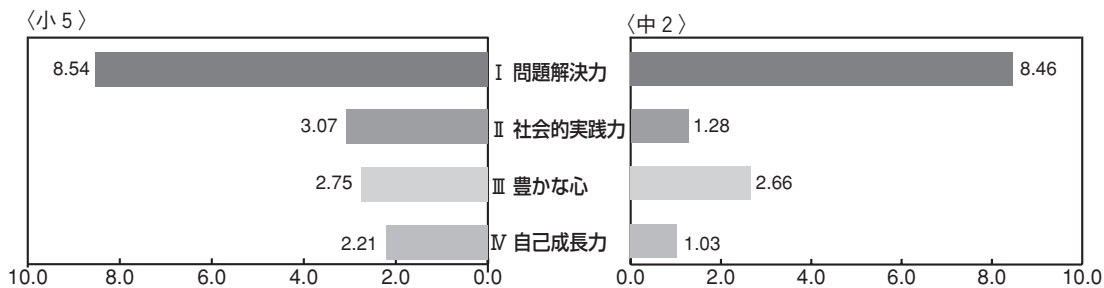
私たち「総合学力研究会」の研究報告も、ここでまとめをすることにしたい。これまでにないほど、多くの資料と調査結果を掲載することになったのも、私たちが日本の子どもたちの総合学力を向上させたいと心から願うその熱意に他ならない。このような大部の報告書を刊行してくださったベネッセ教育総研と、本研究会において優れた調査研究と実践の提案をしてくださったメンバーの先生方にも代表者として心から感謝したい。

さて、本調査研究のまとめとして、私は、これからのわが国の学校教育における学力向上のための提案をわかりやすく整理してみてもうかがうかと考えた。なぜなら、この報告書はページ数も多く、しっかりと読みこなすためには専門的な知識が必要な部分も少なくないために、この全国調査をして何がわかったのか、そして、私たちは何をすればよいのかについて、簡潔にわかりやすくポイント整理をする必要を感じたのである。

そこで作成したのが、次ページの「学力向上のための提言 10 か条」である。これまでの研究成果のエッセンスを、できるだけコンパクトにまとめてみた。それぞれの項目の根拠になったデータや提案については、本報告書の該当章・節を列挙しているので参照していただければ幸いである。なおこの中で、第7条については、さらに次の**図表 1**が参考になる。これは、第3章－2の図表3－2－8と図表3－2－9を「生きる力」の4つの領域毎に大きく括り直したものである。これを見ると、「生きる力」の中でも他の領域と比較して「問題解決力」が教科学力に与えている影響の強さがわかるだろう。まずしっかりと、自ら学び自ら考えて主体的に問題を解決する力を育てることが、教科学力の向上にとって大切であることを示している。

すべての教育関係者が、この提言を参考に子どもたちの学力向上施策を立案・実行してくださることを心から願っている。

図表 1 教科総合スコアに対する「生きる力」各領域の影響度



※図表中の数値は、教科総合スコアを目的変数、「生きる力」各領域のレベルを説明変数とし、数量化I類によって算出したアイテムレンジを示す。

学力向上のための提言10か条

- 1 「学びの基礎力」と教科学力には正の相関関係がある。「学びの基礎力」をバランスよく育てることが、教科学力の向上につながる。
- 2 教科指導では、「授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解させたり、失敗を次の学習に生かすようにすること」が学力向上に大変効果的である。
- 3 「教科学力」、「生きる力」、そして「学びの基礎力」が高い学校では、学校での指導、家庭での支援、そして地域の教育活動が広範囲にわたってバランスよく行われている。学力向上のためには、学校・家庭・地域の連携による総合的な施策が大切である。
- 4 子どもを励まし共に成長を考える家庭での支援的な対話が、学校での子どもの教科学力と「学びの基礎力」の向上につながる。
- 5 家庭での学習時間を確保して宿題をやってくる子どもの教科学力は高い。家庭での学習習慣の確立が教科学力の向上にとって不可欠である。
- 6 「生きる力」と教科学力には正の相関関係がある。「生きる力」をバランスよく育てることが、教科学力の向上につながる。
- 7 教科学習でも総合的な学習の時間においても共通して、問題解決的な学力を育てることが、子どもの自ら学ぶ態度や意欲を育て、それが教科学力の向上につながる。
- 8 教科学力の中でも応用的な学力の向上については、「生きる力」と「学びの基礎力」の高まりが必要条件となる。学力向上のためには、「生きる力」と「学びの基礎力」に支えられて、基礎的な学力と応用的な学力をともに伸ばすことが大切である。
- 9 子ども一人ひとりによって、学力プロフィールは異なっている。そこで、子どもの学力プロフィールに沿って個人差に応じたきめ細かい指導を行うことが大切である。
- 10 自校の学力プロフィールを、「教科学力」、「生きる力」、そして「学びの基礎力」という3つの力のバランスから深く理解し、それに対応した多様な学力向上施策を立案して計画的に実行することが、子どもの総合学力の向上につながる。

[上記提言と報告書の該当章・節の対応表]

第1条	第3章-1	第6条	第3章-2
第2条	第3章-1	第7条	第3章-2
第3条	第4章-4	第8条	第3章-3
第4条	第4章-1	第9条	第5章、第6章
第5条	第3章-1	第10条	第3章-3、第6章